

# 認 定 書

国住指第 4058 号

平成 14 年 5 月 30 日

古河電気工業(株)

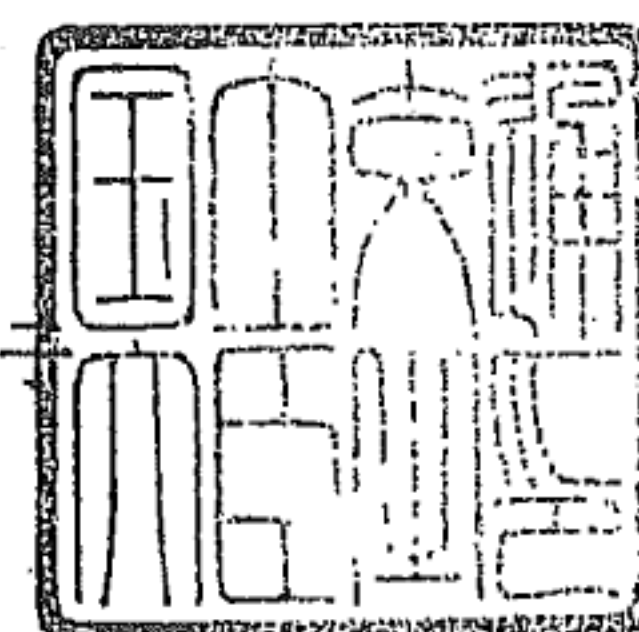
代表取締役社長 古河 潤之助 様

(株)古河テクノマテリアル

代表取締役社長 高田 誠之 様

国土交通大臣

林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 60 分遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号

PS060WL-9052

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

両面けい酸カルシウム板（25mm 以上）張／水酸化アルミニウム  
充填／被覆電線／壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

## 1. 構造名

両面けい酸カルシウム板(25mm以上)張/水酸化アルミニウム充填/被覆電線/壁

## 2. 申請仕様の寸法

項目	申請仕様
開口部	0.6m <sup>2</sup> 以下
占積率 (開口面積に対する断面 積の総合計の割合)	15.3%以下
貫通する壁・床の構造等	鉄筋コンクリート 厚さ100mm以上の壁

## 3. 申請仕様の構成材料(別紙参照)

### 3. 申請仕様の概要

#### 1. 使用材料説明

使用材料を、次に示す。

##### 1.1 耐熱シール材

表-1 に、製造者を、表-2 に主要構成材料を示す。

表-1 製造者

商品名	ダンシール-P
製造者	古河電気工業株式会社 株式会社 古河テクノマテリアル

表-2 耐熱シール材 主要構成材料

主要構成材料	含有率 (%)
有機質バインダー 無機充填材及び難燃材 補強繊維 その他	主要構成材料 および含有率の 内容は社外秘と させていただきます

特性項目	特性値	試験条件
比重	1.8~2.1	
酸素指数	60以上	JIS K 7201
軟度	60~100	JIS A 5752
加熱減量	1%以下	JIS A 5752
作業性	良	JIS A 5752
耐腐食性	良	JIS K 2220
ゴム・プラスチックへの影響	無し	PE、XLPE、PVC等

## 1.2 耐火仕切板

繊維混入けい酸カルシウム板第2種1号・製品名「ケイカライト-SG」（通則認定不燃第1061号）の25mm厚さとする。

## 1.3 耐熱シール材支持用補助材

表-3 に、耐熱シール材支持用補助材を示す。

表-3 耐熱シール材支持用補助材

支持用補助材材料	使用本数		支持方法
	CV-T 325mm <sup>2</sup> 未満	CV-T 325mm <sup>2</sup>	
繊維混入珪酸カルシウム板 (ケイカライト-SG)	1	2	ボルトまたは、吊り金具等にて堅固に固定。
鋼製アングル等	1	2	

## 2.適用範囲

本工法は、建築物の防火区画を構成する壁を電線・ケーブルが貫通する場合、当該部分に於いて耐熱シール材、耐火仕切板等を用いて防火措置を行なうものであり、十分な延焼防止性能を有する工法である。

開口部断面積	0.6㎡ 以下
ケーブル占積率	15.3% 以下 (最大使用ケーブル：600V CV-T 325mm <sup>2</sup> )

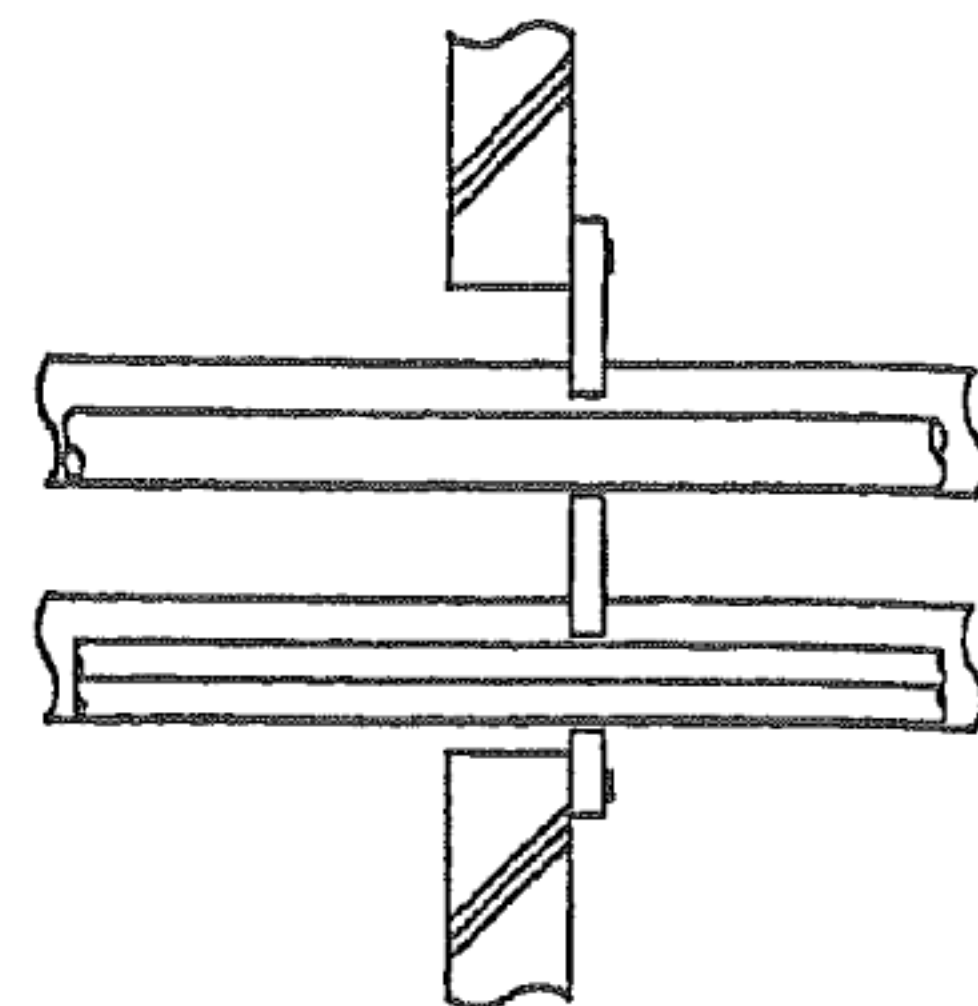


## 5. 施工方法

### 手順-1 ケイカライト-SGの切断・加工および固定

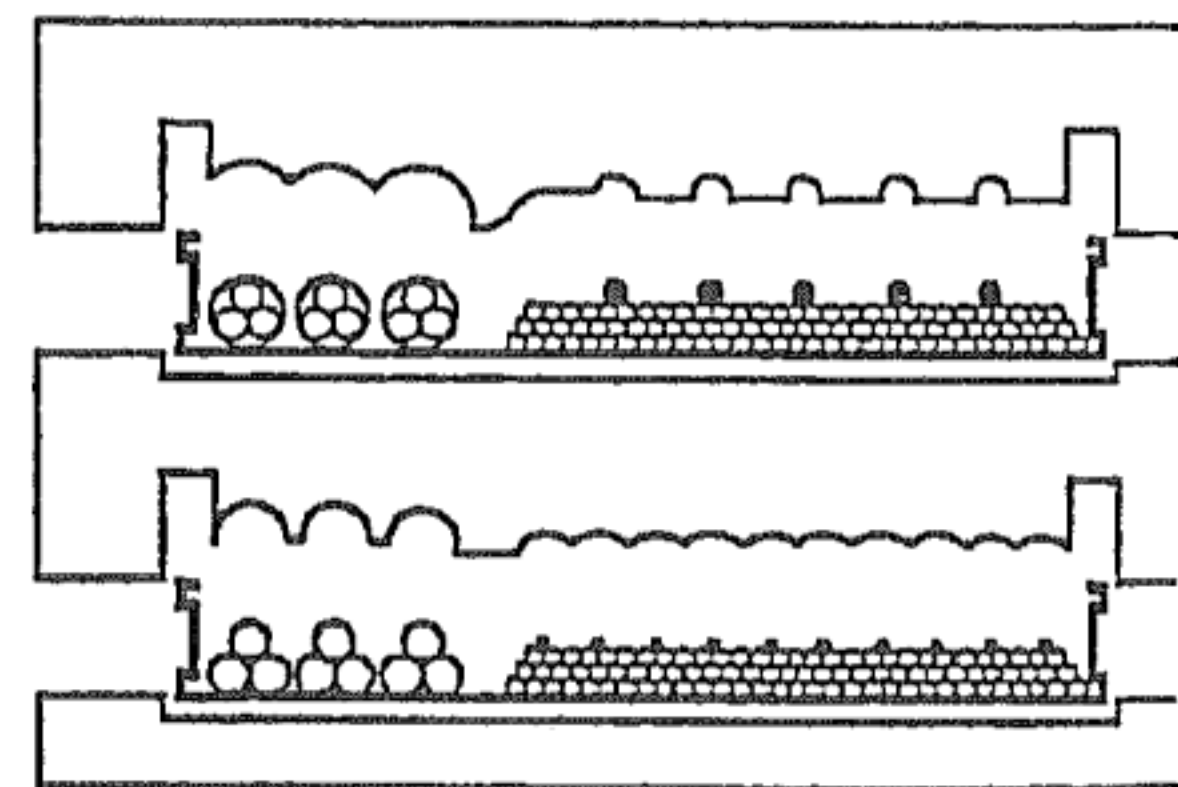
#### (1) ケイカライト-SGの切断・加工

壁の開口部及び配線ケーブルの形状・寸法を測り取り、両側の耐火仕切板（以下、ケイカライト-SGという）の加工を行う。この時、開口部の壁面へのケイカライト-SGの重ね代は、開口部各辺それぞれ50mm以上とする。



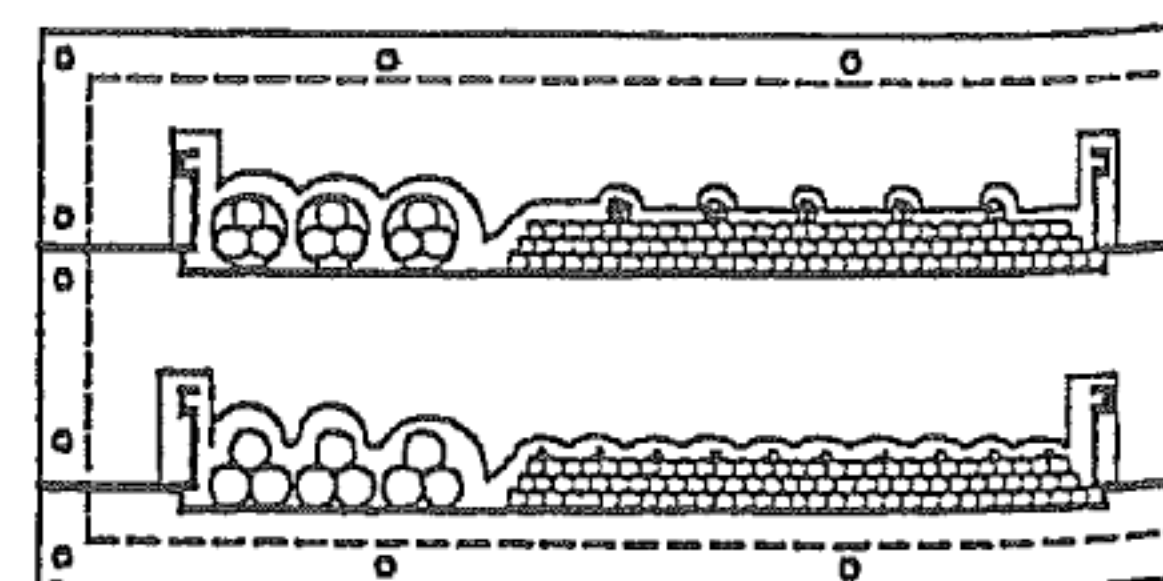
#### ※ ケイカライト-SGの加工要領

親桁の外周とケーブルの外周をフリーハンドでけがいて切り込みます。  
（ケーブルとケイカル板の隙間は5～10mm程度を目安とします。）



#### (2) ケイカライト-SGの固定

片壁面のケイカライト-SGをアンカーボルト（M6以上）により固定する。

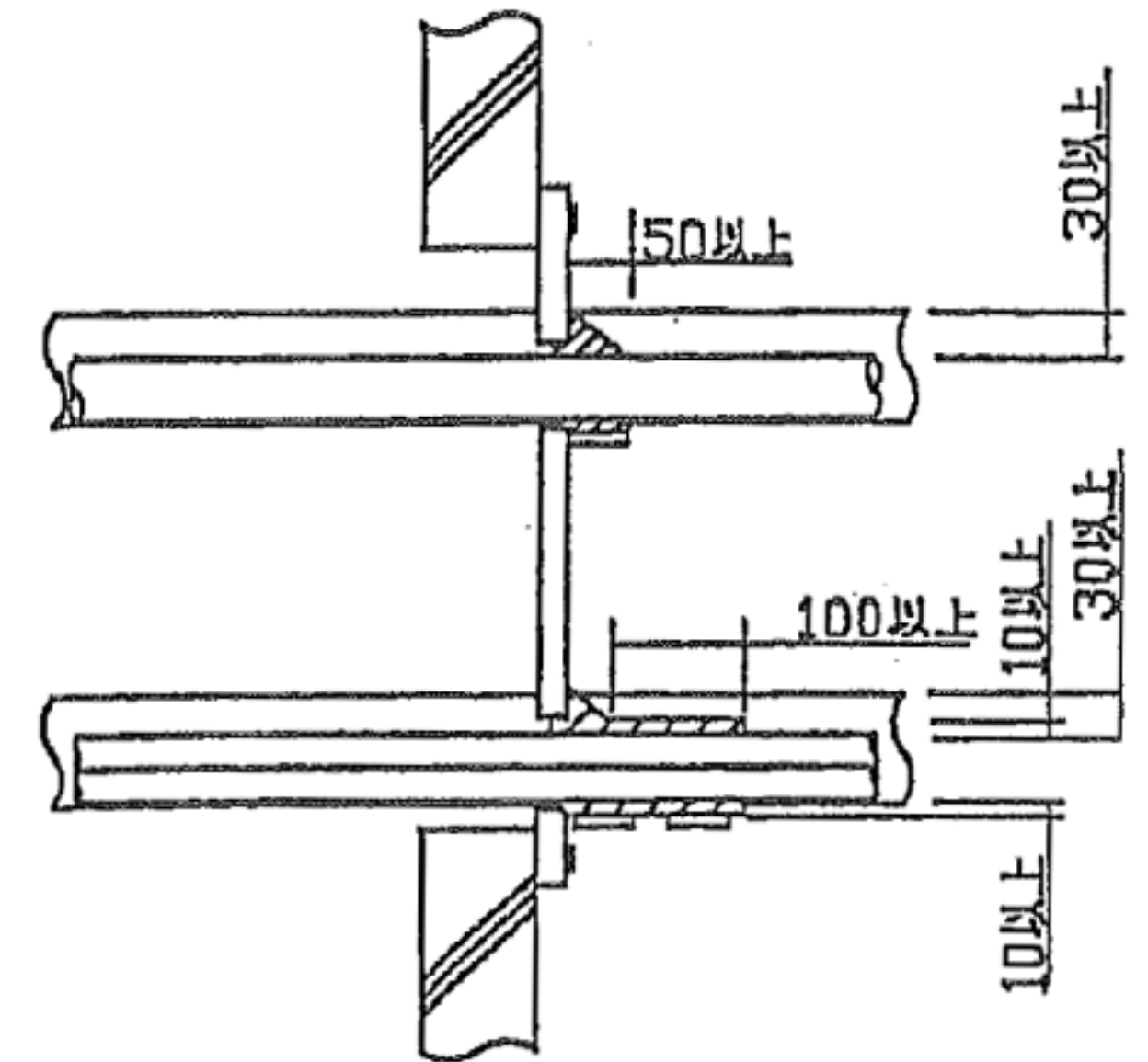


## 手順-2 ダンシール-P充填

### (1) CV-T 325mm<sup>2</sup> 未満の場合

① ケーブルとケイカライト-SGの間隙部を耐熱シール材（以下、ダンシール-Pという）で埋める。また、ケイカライト-SG相互間の隙間にも、ダンシール-Pを充填する。

② ケーブル周りにダンシール-Pを長さ50mm以上、高さ30mm以上、図示する様に盛り上げる。尚、ケーブル下方のダンシール-P支持用補助材を所定の位置にボルト等で固定した後、支持用補助材の隙間にもダンシール-Pを充填する。

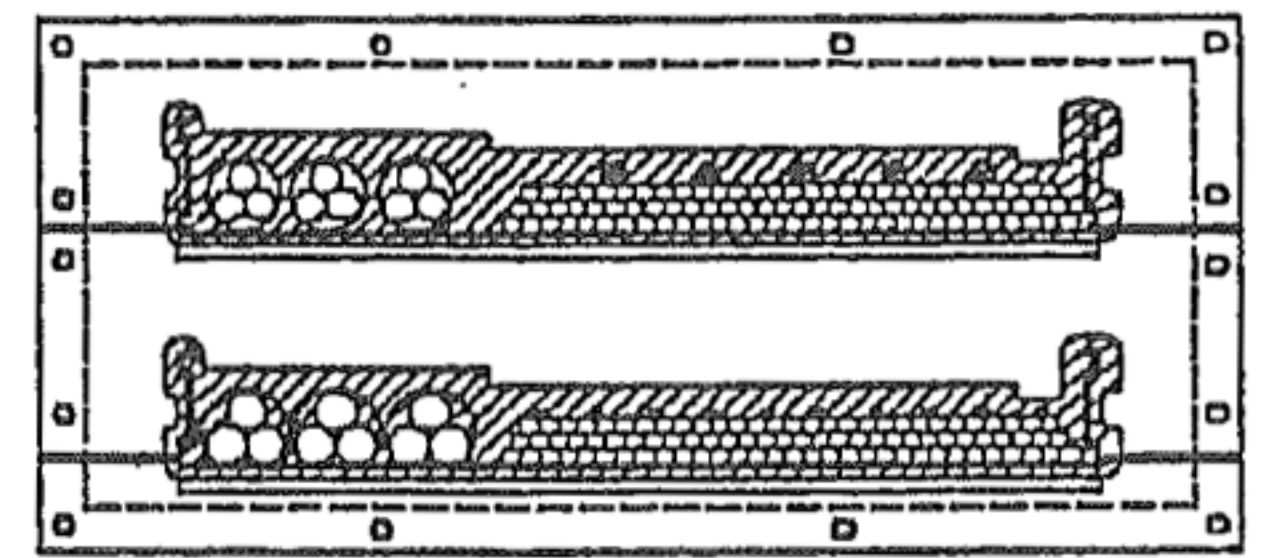


### (2) CV-T 325mm<sup>2</sup> の場合

① ケーブルとケイカライト-SGの間隙部を耐熱シール材（以下、ダンシール-Pという）で埋める。この時、ケイカライト-SG相互間に隙間があるようなら、その部分にもダンシール-Pを充填する。

② ダンシール-Pを、手順2(1)-②で処理したダンシール-Pの端部より100mm以上、高さ10mm以上ケーブル周りに巻き付ける。

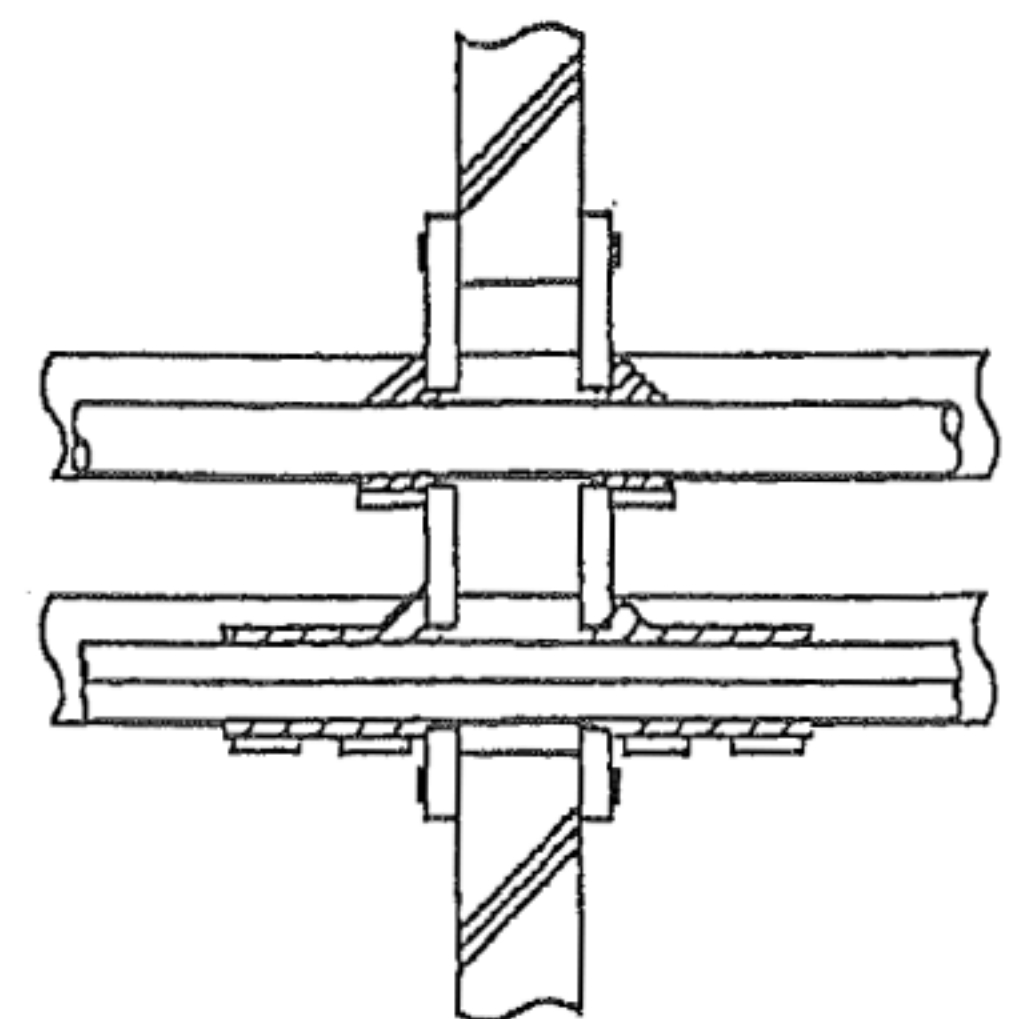
③ ダンシール-P巻き付け後、ケーブル下方のダンシール-P支持用補助材を図示する所定の位置にボルト等で堅固に固定する。



## 手順-3 裏面施工

(1) 手順1-(2)で加工した残りのケイカライト-SGをもう一方の壁面に手順1-(3)と同様に固定する。

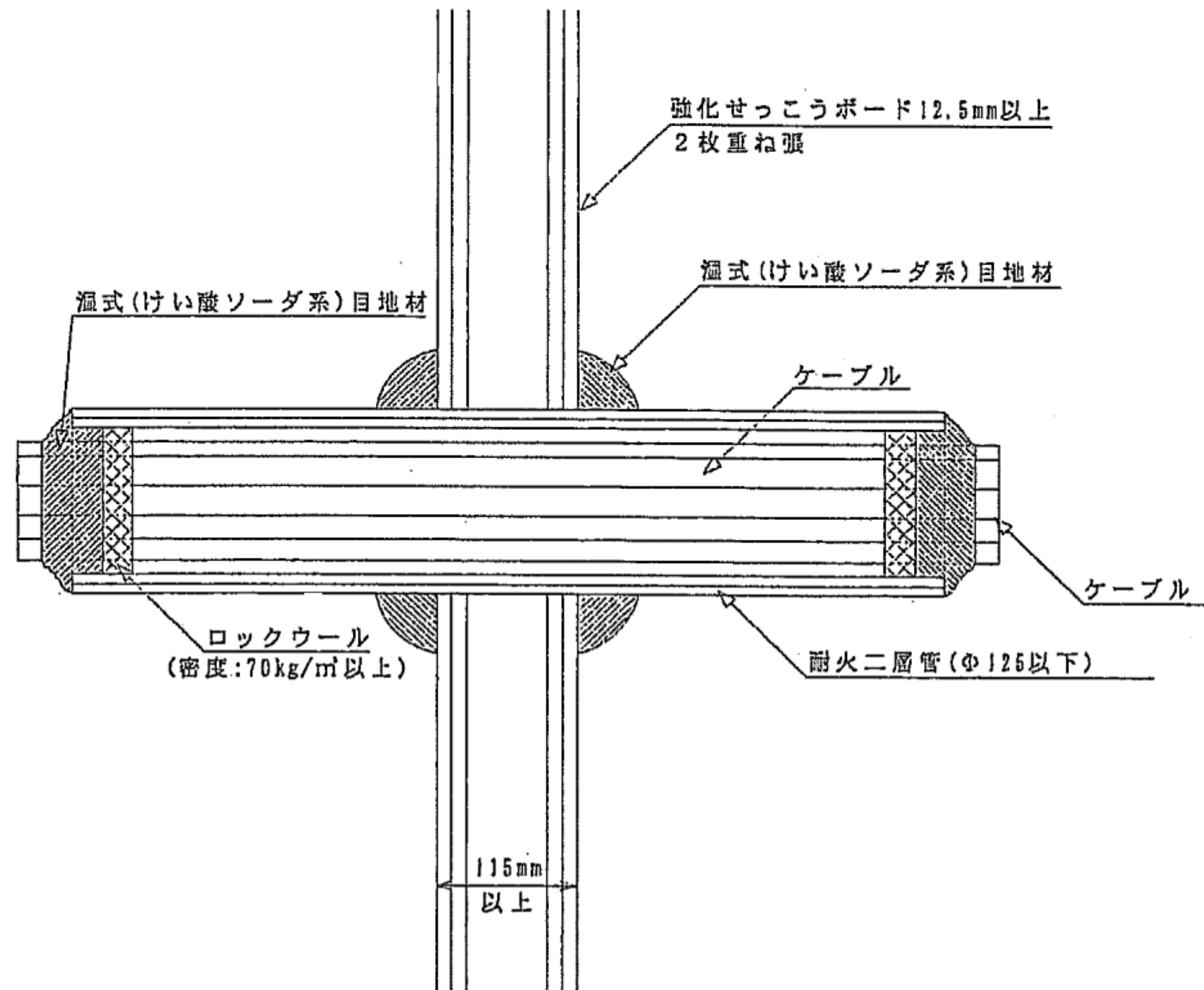
(2) 手順2の施工を同様に行い完了とする。



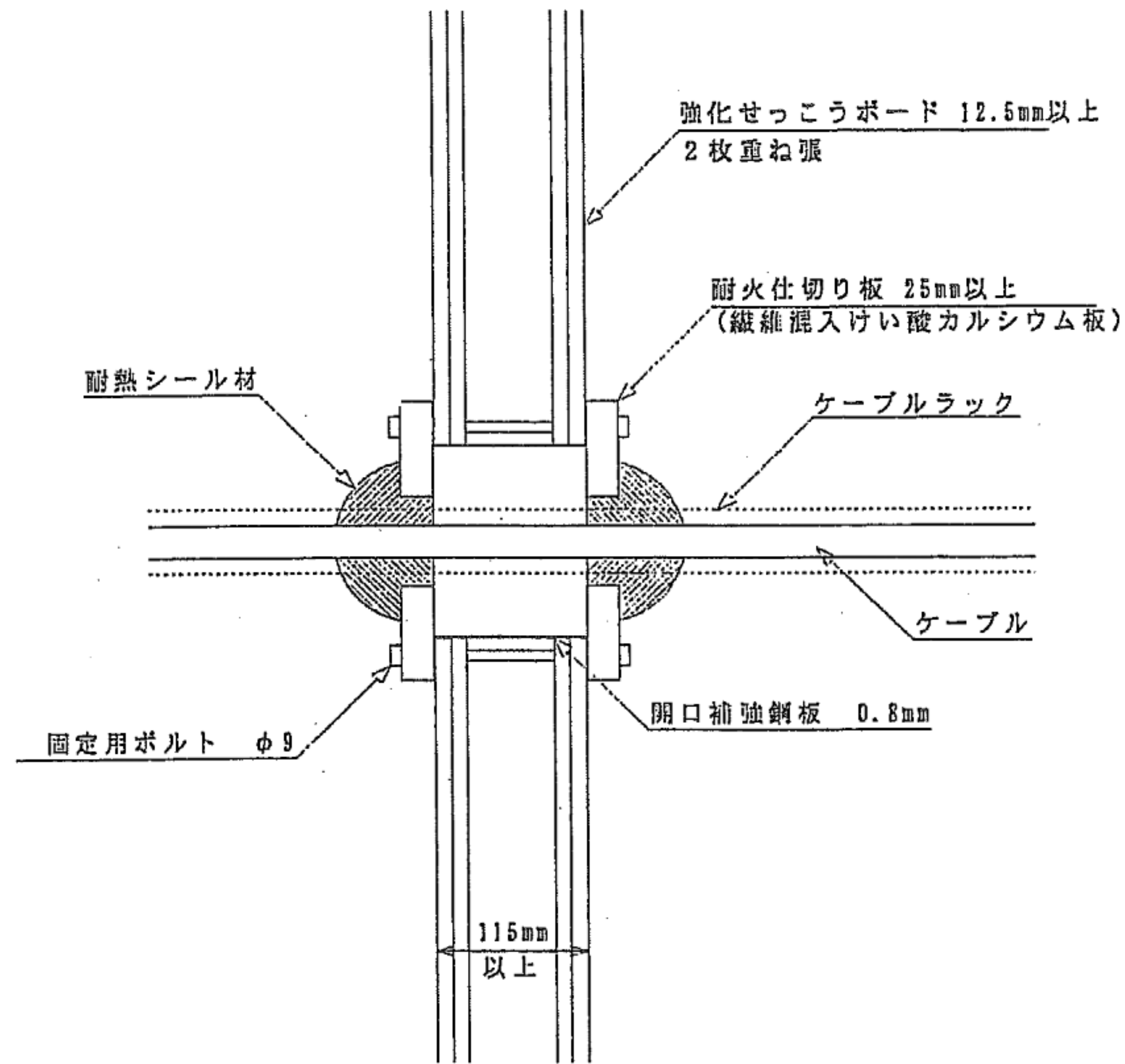


## 6. 留意事項

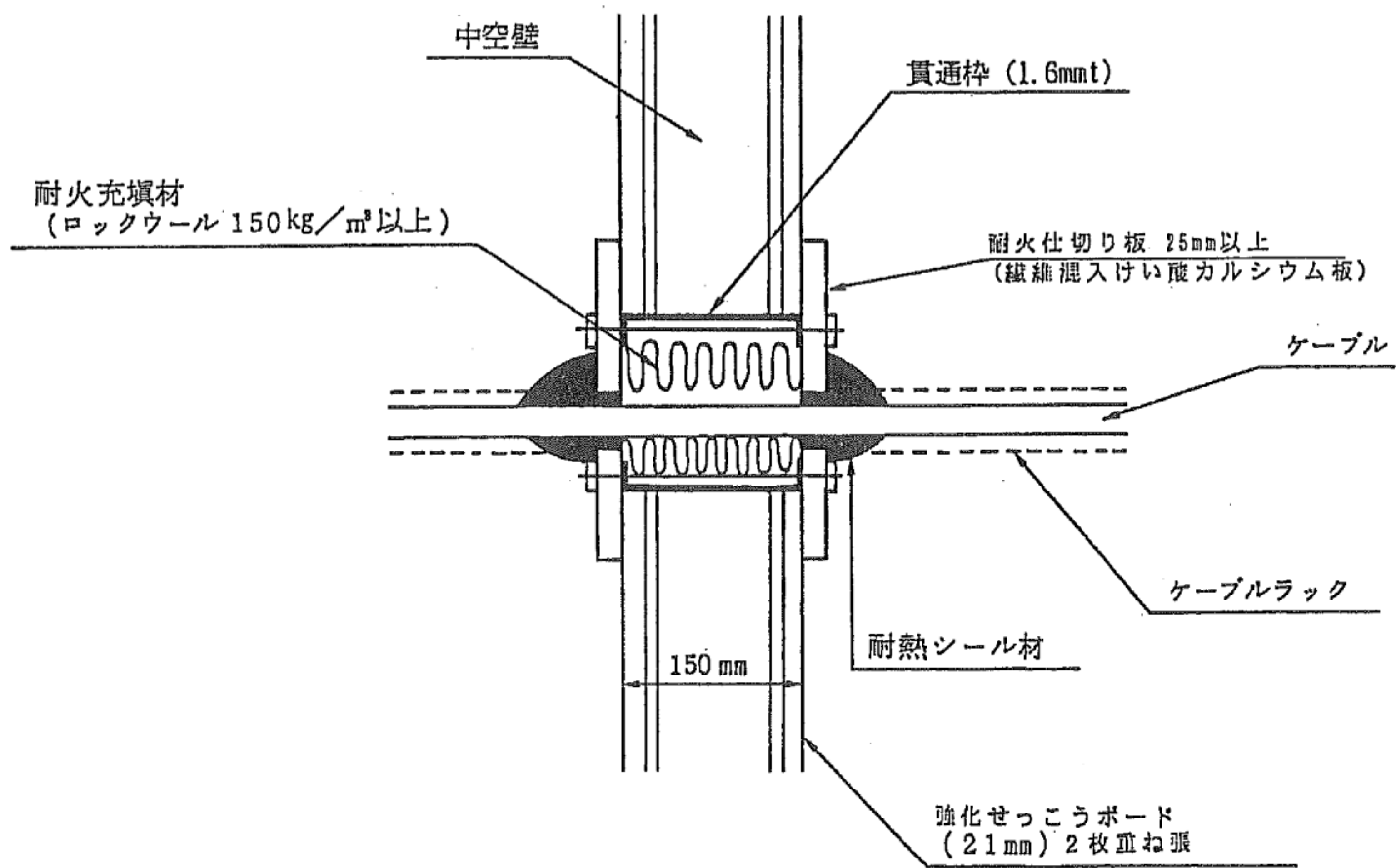
本認定は、原則として中空壁を貫通する管を対象とするものではない。ただし、次の仕様で中空壁を貫通する管については、既に試験等で性能が確認されているため、認定の適用範囲とすることができる。



ケーブル配線（耐火二層管挿入）の防火区画（中空壁）貫通部措置：



ケーブル配線（ケーブルラック）の防火区画（中空壁）貫通部措置



ケーブル配線の防火区画（中空壁）貫通部防火措置工法